

MAIL NEWS



2023,07,01

NO. 272

6月28日 水戸地本 あっせん申請 提出 茨城県労働委員会へ

水戸支社へ通知書も発出

常磐線中編成ワンマン問題

水戸支社へ

通知書発出!

東日本旅客鉄道株式会社
水戸支社長 小川 一路 殿

2023年6月28日

JR東日本輸送サービス労働組合
水戸地方本部
執行委員長 黒澤 純一

「あっせん申請」の通知について

2023年4月19日に水戸支社から「中編成ワンマン運転の拡大（土浦～水戸間及びいわき～原ノ町間）について」の提案が示されて以降、これまで幾度となくその「提案日」が示されてきました。また、4月21日にはその提案日を示した書面とともに「提案資料」が渡され、提案を受けない地本に対して対応を迫ってきました。

しかしながら、地本は4月21日に発出した「見解」及び5月1日に水戸支社に手交した「通知書」で示した通り、現在も提案を受けない判断に変わりはありません。それは、通知書でも明らかにしてきたように、申8号交渉（2020年度）での「起動開始時は『1ノッチ5秒』でモニタを注視する」という労使の確認事項が申18号交渉（2022年度）で一方的に覆されたことに対する整理が付いていないからであり、中編成ワンマン運転の「安全」を守る観点からも看過できるものではないからです。

水戸支社は、5月31日に「中編成ワンマン運転の拡大について」と題した書面を地本に手交し、①これまで説明（提案）の機会を設けるべく複数の候補日を提示してきたが、地本が応じないこと ②地本が拒否する姿勢を固持するのであれば、6月30日をもって、説明（提案）を受ける機会を放棄したものととして取扱う という趣旨の内容を示してきました。また、『1ノッチ5秒』については、マニュアルの記載の有無を問わず、その実施自体を否定するものではなく、現に箇所における指導等においても、既にその旨を明らかにしている「実態に即した柔軟な取扱いを許容する旨の取扱い変更の理由や『1ノッチ5秒』に係る取扱い等を丁寧に説明している」として、地本の提案を受けない姿勢を問題視するとともに核心点を逸らす主張をしています。

繰り返しになりますが、「団体交渉で確認した『1ノッチ5秒』を水戸支社が一方的に覆したことが核心的な問題であり、地本は団体交渉で確認した事項の遵守を求めているだけです。しかし、水戸支社はこの間の団体交渉や折衝で「一定の整理がついた」「よく説明してきた」と述べているように、その一方的な認識は信義誠実に反する姿勢にあると指摘せざるを得ません。そして、このような水戸支社の姿勢が今回の事態を生み出していることを受け止めるべきです。また、これまでも水戸支社がこの確認事項を履行できないのであればそれに代わる安全対策を示すべきだと議論してきました。しかし、この提案すら拒否されたのです。これは組合員の利益はもとより中編成ワンマン運転で利用される乗客の安全を守り抜くことはできません。

よって、自主的解決の努力を尽くしても解決が図られないため、「労使間の取扱いに関する協約」第69条に基づき、茨城県労働委員会に「あっせん申請」を行うことを書面により事前に通知します。

そして、これまで水戸支社は「具体的な提起があれば議論する」という姿勢を再三にわたり地本に示してきました。また、地本は5月1日の「通知書」で提案に対する対応を示してきた通り、この「あっせん」により前に進む議論ができると認識しています。よって、これらの「経緯」と「労使間の取扱いに関する協約」の遵守を踏まえた、誠意ある判断を最後に要請し、通知書とします。

以上

施策の「遣り得」は許されない!

労使対等・信義誠実の原則を逸脱した
団体交渉の形骸化を許さない
団体会交渉で「鉄道の安全を守るために労使で確認した事項」を
会社が、労使の合意なく一方的に変更…